

(様式第4号) 交流・文化施設等運営管理計画検討委員会 第4回ホール検討委員会概要

1	会議名	交流・文化施設等運営管理計画検討委員会 ホール委員会
2	日時	平成23年8月5日(金) 午後4時30分から午後6時30分まで
3	会場	上田市役所本庁舎3階 第一応接室
4	出席者	津村委員長、関田委員、関口委員、金井委員、佐田市長アドバイザー 【欠席】渡辺委員、成沢委員
5	市側出席者	伊藤交流・文化施設建設準備室長、土屋文化振興課長、室賀交流・文化施設建設準備室長補佐、若林交流・文化施設建設準備室長補佐、堀内文化振興課地域文化係長、掛川主査、徳田主査
6	公開・非公開等の別	公開・一部公開・非公開
7	傍聴者0人	記者3人
8	会議概要作成年月日	平成23年8月8日

協議事項等

- 1 開会(伊藤交流・文化施設建設準備室長)
- 2 委員長あいさつ  
委員長: 前回から今回の間に震災もあったが、良い施設をつくっていくということは何も変わっていないので、ぜひ忌憚ないご意見をいただきたい。まず、報告事項として、市民説明会の開催結果についてと基本設計について合わせて事務局から説明していただきたい。
- 3 報告事項  
・市民説明会の開催結果について  
事務局:(資料 市民説明会開催結果概要、資料 基本設計の概要について合わせて説明)
- 4 協議事項  
・運営管理計画検討結果報告(素案)について  
事務局:(資料説明)  
委員長: 素案について、これまでに出版されている市民の方々のご意見を踏まえて協議して行きたい。まず、交流・文化施設の基本理念のところでは何かご意見は。  
委員: その前に、市民説明会の参加者は、どう募ったのか。  
事務局: 広報うえだ、マスコミ、有線放送などのメディアで、広く市民が参加していただくようにPRをさせていただいた。併せて、関係文化団体等の組織へもPRをし、広く参集を図った。  
委員: 公平に、自由に市民のどなたも参加できる、賛否関係なく、公平性を持った説明会という中で、全体としては進めた方が良いというのが、圧倒的な考えであったと理解してよいか。  
事務局: はい。  
委員長: 基本理念のところだが、市民の意見で、伝統文化のことが少し触れられていて、今の素案のところには入っていない。地域の文化をどう継承していくかということは、あとには出てくるが、ここの中で何か表現してはどうか。捉え方によっては、西洋的な芸術が中心ではあるという感じが見受けられ、誤解される部分があるかもしれない、地域の文化を継承していくという作業もやっている。  
次に、理念に基づく目標というところで、ご意見は。  
委員: 交流・文化施設ができることで、隣の大型店だけが得をすることがないようにというのは、市民の皆さんが思っていることではないか。これができることで、上田の町が本当にいきいきしてほしいということを考えているというのは、常に考える必要がある。  
委員長: それは、町の中に拠点将来つくられていかなければいけないと思う。その拠点というか、その場所とホール、美術館という拠点がどう結びついていくのかが、将来的には重要になっていくと思うので、すぐに一緒にやるというのは難しいが、そういう計画も踏まえたくてオープンを迎えていくという作業が必要。  
委員: ここに載っているが、今までのホールや地域を大事にしながら、この拠点と連携して活かしていくという考え、これが運営の上で非常に大事ではないか。  
アドバイザー: 真ん中に核があって、施設がいろんな所にあって、これが全部イコールでつながっていくっていい

う事業展開は当然必要になってくる、例えば交流・文化施設自体を甲子園球場と考えて、各地域で何か街の大会をやって、1位2位がここで何かやるとか。「あそこは勝たないと行けない」という、各地域の子が頑張るといようなポジションづけをすると面白いのではないかと。

委員：上田市という町で何かがあるときには、つねに交流・文化施設が関係しているということが必要。今までの伝統的な文化行事とかあるときにはつねにホールは閉まっているのではなくて、つねに関連性があることが命を吹き込んでいく。

アドバイザー：最初の1～2年は、黙っていてもお客さんや催しもの集まると思うが、その後のことを今から十分考えておく方がよい。

委員：最初はみんな一回どんな劇場か見たいので、催し物もよく入るが、3年ぐらい経つと、「1～2回行ったからいいや」と、来なくなる、そんな現象を見てきた。地域との連携をどうしていくか、運営も自主事業も、それぞれの施設がやるのか、ここでそれぞれの施設のことも含めてやっていくのか、その運営がすごく大事ではないか。

委員：言葉の問題でいうと、4ページの事業方針の4、「プロ公演」という言葉が引っかかっている。よくそういう言葉が使われるのか、「プロ公演」。これはアマチュアでなく、プロフェッショナルな音楽家の公演という意味でよいのか？

事務局：はい。

委員：特にクラシックは、アマチュアなのか、プロなのかって、非常に難しいところがあるので、あまり私たちの業界では、プロ・アマっていう言葉で区別していない。

事務局：からまで、もそうだが、市民という視点があり、興行利用の推進を図りながら、貸し館業務の方にも連携をしていきたいという位置づけで、プロ公演という表記をした。

委員長：公演という、演劇的なイメージがあるが、「公演やコンサート」と書かず、「公演」だけでよいのか。

委員：演劇以外でも必ずしもコンサートと呼ばない舞台芸術があるので、「公演」が良い。

事務局：承知した。

アドバイザー：ホールに愛称をつけるとすれば、出来てからか。

委員長：開館する前に、1年ぐらい前から応募というのが多い。もちろんコンセプトとか、絵を見せて、それで募集して、その募集することで、「ここにホールができますよ、1年後にできますよ」という宣伝にもなる。

委員：その愛称が付くと、例えばホールの命名権を売却することはできないのか。

委員：良い名前が付けばいいが。この施設の理念は育成とっているので、理念にふさわしくない名前がついても具合が悪い。

委員長：宣伝ということではなく、メセナ的にやってくれるような企業があれば、例えば外国では、トイレという表示の下に広告だけ入れて良いとか、そういう例もある。

委員：オーケストラの自主事業をやる時に、公演の協賛をもらう。事業体ごとに協賛企業を募ることもあり得る。それから、年間いくらって協賛企業を、10社なら10社募って、会場の中に貼り出すとか。施設の名前そのものを企業の名前にするのはどうなのかなと、いろんなところを見て感じる。

委員：「育てる」は、どこを節目に、どう評価するかが非常に難しい。これはホールができていて、子どもたちと一緒にやった結果こうなってくる。反対に、「地元の文化団体を育てます」とはっきりと書いても良い。「市民自ら文化活動を行い」ではなく、「文化団体を育てて支えます」でも良い。この「育てる」の中身を見た人が、どう捉えて良いのか難しい。

アドバイザー：「育てる」は、上から目線のような気がした。「育てたい」だったらわかるが。

委員長：「ひと」「文化」「まち」「施設」の、この同じ「育てる」という、言葉は同じだが、育てるという概念がそれぞれ若干違う。ただ、そこを理解してもらえるような表現の仕方をしないといけない。理念を書くときは、誤解がない方がよい。

委員：結果として「育つ」がよいのではないかと。

委員：「育む」はどうか。

委員長：ここでは、いろんなことが吹き込まれているという理念の見せ方になるので、これがだめと言うわけではないが、事務局で検討して欲しい。

委員：地元の団体に使ってもらうことに対して、ただ「貸し館」と「使用料」というだけでなく、「今度のホールは、これだけ熱い思いで皆さんに使ってもらいたい」という何かもう少し

あっても良いと思う。

委員：運営の仕方でも、自主事業と、貸し館の区分は今後なくなっていくのではないか。共催だとか、いろんな形態が今流行っている。「貸し館」という言葉は、「建物だけどうぞ」という語感はある。

委員長：「貸し館」は、違う言葉を使うと、受ける側は自分にいいように取ってしまう、誤解が生じてトラブルが起きたことは、過去にはたくさんので、どうしても「貸し館」という言葉を使ってしまう。

事務局：貸し館から発展するが、基本的に借りるのは地元の方。例えば学校も含めて、ポイント制にして、5回使ったら次に借りるときには半額とか、無料にしても良いのでは。

委員長：4回目は市と共催で一緒にやるっていう形で無料にする。また3回やって無料にするという形でやっているところはある。市と共催でなく無料だと、条例があるので減免理由が難しくなる。

委員：「上田の市民会館って親切なんだって」という評判が立つことが、すごく大事。

委員長：減免をどうするのかを設置条例の中で決めないといけない、減免率をいくつにするかに関しては、規約の中でホールが判断すれば良いと条例に盛り込んでおけば、ホールの方で全部決めていける。もう少し具体的になっていくと、減免をどうするのか大きな問題になってくる。あんまり減免をやっていると、ホール全体の売上がなくなる。

次に、「各事業の具体的イメージ」の表中に、事業回数を書いてあるが、事業回数を書くと、市民のイメージを膨らませるためには良いが、イメージとはいえ、それに縛られたり、回数だけが一人歩きしたりしないか。

事務局：一般には具体的にわかりやすいということで、あえて入れた。ただ、この計画の中に位置づけるのはどうかということでご指摘があれば、それは再検討する。

委員：企画自体がまだイメージであり、予算との関係でできない場合もある。

委員長：年間を通してこういうバランスで事業があると、回数が入っている方がわかりやすいから残しておくということで、よろしいか。

委員：(了承)

委員：市民意見にもあったが、駐車場の台数は大丈夫か。

委員長：1年のうち400台が溢れるのは、何日かということ、そのために600台、700台をとっていると、これはもう大変なことになる。400台で無理だということであれば、別の駐車場までバスをその日だけピストンするか、違う形のものを将来的には考えないといけない。

事務局：駐車場に関しては、市民の皆さんから多くのご意見をいただいたところだが、この施設以外の駐車場も活用しながら工夫をしていきたいと考えているのでよろしくお願したい。

委員：フランチャイズのような核になるものは欲しいが、ランニングコストについては十分検討しておきたい。

委員：一流のオーケストラを聴きたい方も多い、それを割安で、かつただ演奏して帰ってもらうだけでなく、その団員の人たちでアウトリーチとか、多彩な活動を総合的にやると、非常に効率が良い。オーケストラも求めているところがある。かなりいろいろ話し合いができると思うので、これはこれでぜひ実現の方向で進めた方が良い。

委員：フランチャイズは、プロ野球やサッカーをフランチャイズ化するのと一緒に、市民側と相思相愛にならないといけない。

委員：オーケストラも、市民と一緒に、街を文化的に活性化しようとする意欲を持ったところを選び、具体的なやり方を考えていく。

委員長：ほかの施設との連携の点に入っていくが、施設全体を活用した事業ということをここで出している、ここに関してはもう少し何かご意見等は。

委員：結局、運営はホールごとでやるのか、一括してやるのか。その辺りがすごく大きい。統一性、整合性が大事。

委員長：市内の施設は今すべて直営か。

事務局：セレスホール、文化会館が直営。信州国際音楽村は信州国際音楽村という財団が運営している、上田創造館は広域連合の施設で、財団の運営。

委員長：直営で行こうとしているので、既存施設を含めて「みんなで一緒にやろう」ということが難しい部分もある、事前にかなり調整しないとけない。先ほどからだいぶ意見が出たので、既存施設等との連携事業というところをもう少しわかりやすくした方が良いのか、それとも、この「各施設の

特徴を十分に活かす、役割分担・機能分担の調整」と1行で説明しておいた方が良いのか。

委員：意地悪くこの言葉を取ると、「良いのは市民会館へ持って行って、そうじゃないのを回してよこす」というふうに思われる。

委員長：ここは、「連携を図る」という形でもよろしいか。

委員：(了承)

委員長：管理運営体制について何かご意見は。

委員：まずは力のある人をどう確保するかという、人選と一緒に体制と一緒に考えていくことになる。上田を知らない人は良くないと思う。

委員長：二通りあり、上田のことがわかっている人の方がやりにくいこともある。よく街を面白くするときと言われるのは、「よそ者、若者、バカ者」と言われる。逆に、顔がつながっている地元の方がなった方が良い場合もあり、地域性と施設が何をやるかによって変わってくる。

市民の方々のご理解をいただきたいのは、4、5年後に、日本全体で150から200館のホールができると言われている。日本全国に沢山ホールができるので、とにかく早く人を見つけておかないといけない、その投資はご理解をいただきながら進めていかないと、「1年前でいいんでしょ」っていったら、もうまったく人がいなくなる。

## 5 その他

事務局：次回のホール委員会については、9月の初旬を予定している。日程については委員長と協議し、改めて委員の皆さんに通知したい。内容については今日のご提案、ご意見等を踏まえて事務局の方でさらに検討結果案ということでまとめ、次回は事前にその内容をお送りさせていただく。

委員：(了承)

## 6 閉会